



RMX1008 DFX RMX1508 DFX

クイックスタート・ガイド

保証書在中

* 本書巻末にあります

安全にお使いいただくために

この取扱説明書で使用している危険防止のマーク





このマークは、操作とメンテナンスにおける重要な指示があることを示しています。
このマークは、適切な電圧で機器を使用しないと、感電の恐れがあるという警告です。
このマークは、ご利用の出力コネクタが感電を起こす恐れのある電圧を含んでいるという警告です。



製品をご使用の際は、使用上の注意に従ってください。



1. 注意事項を読んでください。
2. 注意事項を守ってください。
3. すべての警告に従ってください。
4. すべての注意事項に従ってください。
5. 水の近くで使用しないでください。
6. お手入れの際は、乾いた布を使用してください。液体洗剤は、フロントパネルのコントロール装置を損なったり、危険な状態を招いたりする恐れがあるので、使用しないでください。
7. 取扱説明書に従って設置してください。
8. 暖房器具や調理器具、アンプを含むほかの音楽機器など、熱を生じる機器の近くには、置かないでください。
9. 電源プラグは、危険防止のために、正しく使用してください。アース端子付の電源プラグは、2つのブレードのほかに棒状のアース端子が付いています。これは、安全のためのものです。ご利用のコンセント差込口の形状に合わないときは、専門の業者にコンセントの取り替えを依頼してください。
10. 電源コードを誤って踏んだり、挟んだりしないように注意してください。特にプラグ部、コンセント差込口、本装置の出力部分に注意してください。
11. 付属品は、メーカーが指定しているものを使用してください。
12. 音響機器専用の台車、スタンド、ブラケット、テーブルに載せて使用してください。設置の際、ケーブルの接続や装置の設置方法が、 損傷や故障の原因にならないよう注意してください。
13. 雷が鳴っているときや、長時間使用しないときは、プラグを抜いてください。
14. 修理やアフター・サービスについては、専用窓口にお問い合わせください。電源コードやプラグが損傷したとき、装置の上に液体をこぼしたり、物を落としたりしたとき、装置が雨や湿気にさらされたとき、正常に動作しないとき等、故障の際は、修理が必要となります。
15. 本装置は、正常に動作していても熱を発生しますので、周辺機器とは最低 15 センチ離し、風通しの良い場所でご利用ください。
16. 本装置をアンプに接続して、ヘッドフォンやスピーカーで長時間、大音量で使用すると、難聴になる恐れがあります。(聴力低下や、耳鳴りを感じたら、専門の医師にご相談ください。)
17. 水がかかるような場所に置かないでください。花瓶、缶飲料、コーヒーカップなど、液体が入ったものを本装置の上に置かないでください。
18. 警告: 火災や感電防止のため、雨や湿気にさらさないでください。

ALTO
PROFESSIONAL

<お問い合わせ>

株式会社ニューマークジャパンコーポレーション

カスタマ・サポート部

〒106-0047 東京都港区南麻布3-19-23

オーク南麻布ビルディング6階

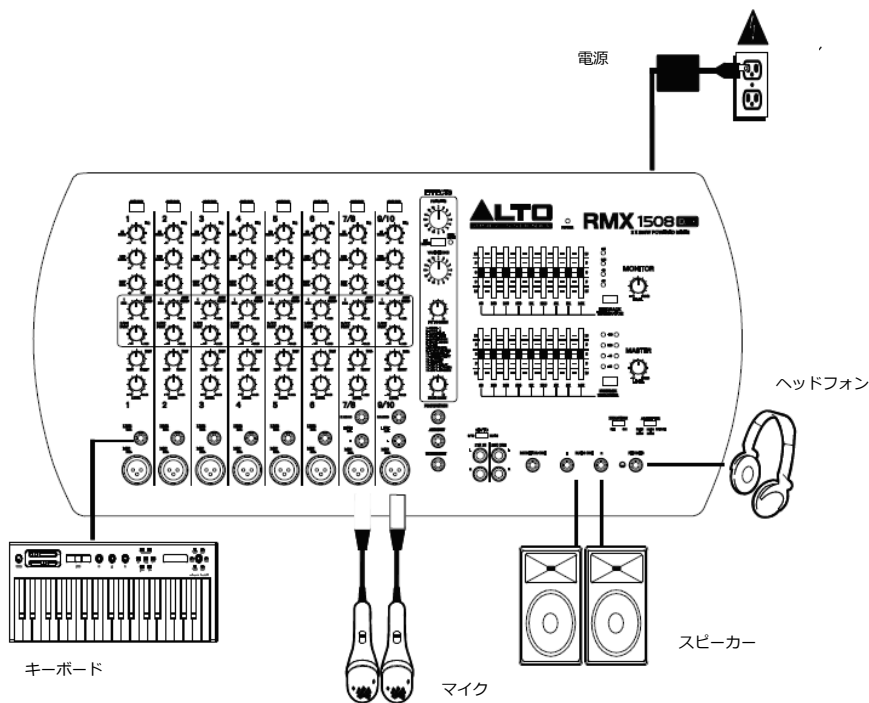
TEL : 03-6277-2231 FAX : 03-6277-0025

梱包内容

- ミキサー本体
- 電源ケーブル
- クイックスタート・ガイド

接続例

例) RMX1508DFX



設置および接続について

各チャンネルの音を出す際には、以下の手順に従って作業してください：

1. 全ての入出力のゲイン・コントロールを最小にする。
2. ファンタム電源の必要なマイクは、+48Vのファンタム電源を**入れる前に**接続する。
3. RMX1008DFX,1508DFXの出力レベルは、最大値の75%以上には上げないでおく。
4. MAINのレベルを最大値の50%程度に設定する。これにより、接続したヘッドフォンやパワード・スピーカーで音が聴けるようになる。
5. イコライザーのコントロールを中央に設定する。
6. パノラマ（PAN）・コントロールを中央に設定する。
7. 十分なヘッドルームと理想的なダイナミック・レンジを確保しながら、入力ゲインを上げる。
8. 入出力のレベル・コントロールをゆっくりと上げて、歪まない範囲内で最大の値に設定する。
9. 全てのチャンネルで上記の手順を繰り返す。マスターのLEDメーターが赤の領域まで振れた場合は、それを防ぐためにMASTERコントロールで全体の音量を調節する。

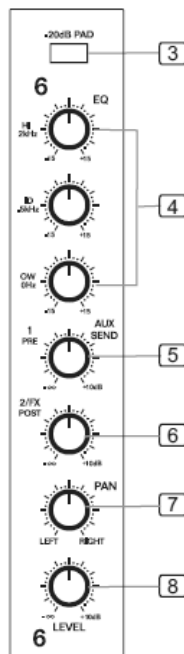
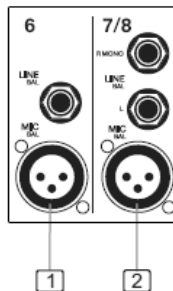
注意：

- マイクやモニター、アンプ、スピーカー、ケーブル等は、製品に含まれません。
- ゲインを上げた際のハム・ノイズを避けるため、ミキサーの電源ユニットはギターやチャンネル入力のケーブルから離しておいてください。
- 外部エフェクターやコンプレッサーなどを使用する場合には、Y ケーブル（1/4 インチ・ステレオ・プラグと2個の1/4 インチ・モノラル・プラグのケーブル）を AUX OUT と外部機器の左右の入力に接続し、機器の出力はミキサーの STEREO RETURN とそれぞれ接続してください。

フロント・パネル

- MIC/LINE MONO 入力** - XLR または 1/4 インチ・ケーブルでマイクまたはライン・レベルの楽器をこれらの入力に接続します。
- MIC/LINE STEREO 入力** - これらの XLR および 1/4 インチ TRS 端子は、ステレオ・ペアとして機能します。右 (R) の端子のみを使用すると、モノラル・モードとして動作します (モノラルの信号は、両方のチャンネルに入力されます)。これらの端子は、キーボードやドラム・マシンなどのステレオ出力を持つ楽器に使用できます。
- 20dB PAD** - ボタンを押すと、入力信号の音量が 20 dB 減衰します。これによってヘッドルームを稼ぎ、入力信号のピークを歪みにくくすることができます。
- EQ** - RMX1008DFX/RMX1508DFX の各チャンネルには 3 バンド EQ が用意され、高音域、中音域、低音域の量が調節できます。全てのバンドは最大 15dB のブーストまたはカットが可能で、中央の位置にはクリックがあります。

HI (トレブル) - チャンネルの高音域の量を調節します。
MID (ミドル) - チャンネルの中音域の量を調節します。
LOW (ベース) - チャンネルの低音域の量を調節します。
- AUX SEND 1 PRE** - RMX1008DFX/RMX1508DFX には 2 系統の AUX SEND 回線があり、内蔵または外部のエフェクター、あるいはモニター回線に送る信号を別途確保できます。これらは、それぞれの他チャンネルの信号を AUX バスに送る量を調節し、その可変幅は $-\infty \sim +10$ dB です。AUX SEND 1 はプリ・フェーダーで、各チャンネルの LEVEL コントロールを通る前の信号が得られます。ライブ時のステージ・モニターやレコーディング時のヘッドフォン用のミックスに使用します。
- AUX SEND 2/FX POST** - ポスト・フェーダーの信号をコントロールするノブで、LEVEL コントロールの設定の影響を受けます。内蔵のデジタル・マルチ・エフェクターに送るポスト・フェーダーの信号の量を調節します。この信号は、チャンネルの LEVEL コントロールの影響も受けます。AUX SEND 2 の信号は、内蔵のデジタル・マルチ・エフェクターに送ることができるばかりでなく、AUX 2 OUT 端子経由



で外部エフェクターに送ることもできます。後者の場合、内蔵エフェクターは自動的にオフになります。

7. **PAN/BAL コントローラー** バランス・コントロールとして機能し、メイン回線の左右のチャンネルに送る信号の量を調節することで、ステレオの音像定位を設定します。このコントロールを中央に設定すると、信号はステージの中央から聞こえます。反時計方向に回しきると左チャンネルからのみ、逆の場合は右チャンネルのみから音が聞こえます。

8. **LEVEL コントローラー** 個々のチャンネルの最終的な音量を調節します。可変幅は $\infty \sim +10\text{dB}$ です。

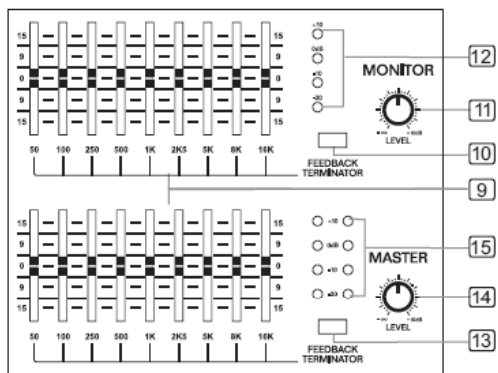
9. **ステレオ・グラフィック EQ**

- RMX1008DFX/RMX1508DFX

は、9つのバンドを個々に調節できるステレオ・グラフィックEQを、マスター回線およびモニター回線用に2基搭載しています。

個々のフェーダーで、それぞれ設定された周波数帯域を $\pm 15\text{dB}$ の範囲でブーストまたはカットできます。全てのフェーダーを中央

の位置に設定すると、フラットな周波数特性が得られます。グラフィックEQはサウンド全体の音質を調節するのに使用します。

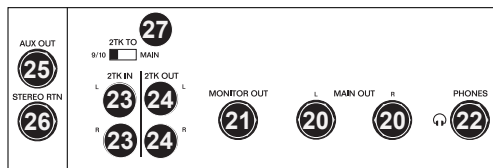
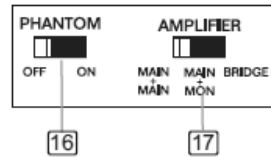


10. **FEEDBACK TERMINATOR ボタン (MONITOR)** - ボタンを押すと、モニター回線のフィードバック検出回路が作動します。検出したフィードバック周波数は、対応するフェーダーのLEDの点灯によって表示します。フィードバックが発生すると、スピーカーからハウリングや発信音のような不快な音が出ます。その場合は、対応するフェーダーを下げてフィードバックを抑えます。

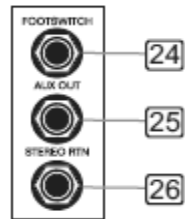
11. **モニター・レベル・コントロール** - MONITOR OUTの音量を調節します。

12. **モニター・レベルLEDディスプレイ** - モニター回線の出力レベルを監視するLEDディスプレイです。

13. **FEEDBACK TERMINATOR ボタン (MASTER)** - ボタンを押すと、マスター回線のフィードバック検出回路が作動します。検出したフィードバック周波数は、対応するフェーダーのLEDの点灯によって表示します。フィードバックが発生すると、スピーカーからハウリングや発信音のような不快な音が出ます。その場合は、対応するフェーダーを下げたてフィードバックを抑えます。
14. **MASTER LEVEL** - MASTER 出力の音量を調節します。
15. **マスター・レベルLEDディスプレイ**- マスター回線の出力レベルを表示する、4セグメントのステレオLEDディスプレイです。
16. **PHANTOM 電源** - このスイッチをオンにすると、8つのマイク入力のXLR端子から、+48Vのファンタム電源が供給されます。ファンタム電源がオンになった状態では、絶対にマイクの接続作業を行わないでください。また、ファンタム電源を入れる前には、ステージ・モニターやメインのスピーカーを保護するために、全てのLEVELコントロールを絞りにしておいてください。
17. **AMPLIFIER モード・スイッチ**- MAIN + MAIN、MAIN + MON、BRIDGEの3つのモードを選択します。スピーカーをリア・パネルに接続する方法に応じて信号経路を設定するために、このスイッチを適切に切り替えてください。アンプリファイア・モードの詳細については後述します。
18. **PHONES 端子**- ヘッドフォン出力用のステレオ型フォーン端子です。
19. **MAIN OUT 端子**- マスター回線の信号を出力する端子で、外部アンプやアクティブ・スピーカーに接続します。
20. **MONITOR OUT 端子** - バランス出力端子で、外部アンプやパワード・スピーカーの入りに接続します。
21. **2TK TO セレクター** - 左側に設定すると、2TK IN 端子に入力された信号が9/10チャンネルに送られます。この場合、信号はチャンネルのLEVELコントロールやEQ、AUX SEND、MASTER LEVEL コントロールなどで調節できます。右側に設定すると、2TK INの信号がMAIN ミックス・バスに送られ、MASTER LEVEL ノブによる音量調節のみが可能になります。

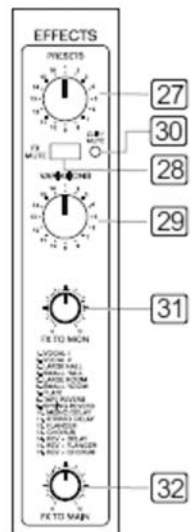


22. **2TK OUT 端子**- RMX1008DFX/RMX1508DFX には 1 組（左右）の RCA 出力端子が用意され、マスター回線の信号をレコーダーに送って演奏を録音することができます。
23. **2TK IN 端子**- RMX1008DFX/RMX1508DFX には 1 組（左右ステレオ）の RCA 入力端子も用意されています。CD プレイヤーや DAT、iPod などを聴く場合には、この端子を使用してください。2TK TO セレクターの設定によって、この端子に入力された信号は 9/10 チャンネルまたはマスター・ミックス・バスに送ることができます。
24. **FOOTSWITCH 端子** -内蔵のデジタル・マルチ・エフェクターのオン/オフを切り替えるための、外部フットスイッチ（別売）を接続する 1/4 インチ・フォーン端子です。
25. **AUX OUT 端子** - AUX バスのライン・レベルの信号を出力するフォーン端子です。通常は、外部エフェクターに信号を送るのに使用します。
26. **STEREO RTN 端子** -外部エフェクスの出力をマスター回線に戻すのに使用する、ステレオ型フォーン端子です。補助入力端子としても使用できます。



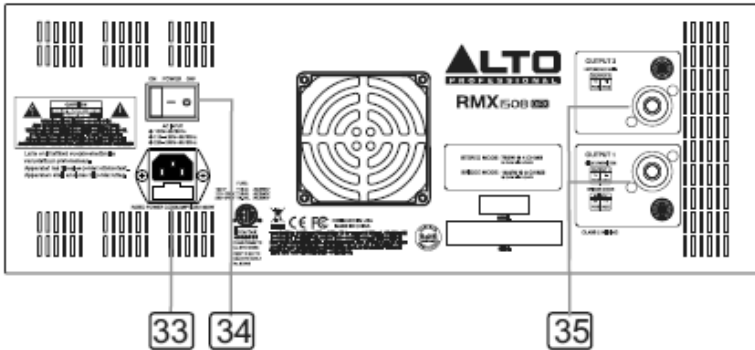
DSP (デジタル・シグナル・プロセッサー)

27. **PRESETS コントローラー** - このノブで、数種類のリバーブ、モノラルおよびステレオ・ディレイ、モジュレーション・エフェクト、2 種類のエフェクトの様々な組み合わせなど、合計 16 種類のプリセットの中から好みのエフェクトが選択できます。
28. **FX MUTE スイッチ** - このスイッチで、デジタル・マルチ・エフェクターのオン/オフを切り替えます。フットスイッチを使用してオン/オフを切り換えることもできます。
29. **VARIATIONS コントロール** -PRESETS コントロールで好みのエフェクトを選んだ後、さらに 16 種類の細かいバリエーションをこのコントロールで選択します。コントロールを回すと、エフェクトの複数のパラメーターが変化します。
30. **CLIP/MUTE LED** - デジタル・マルチ・エフェクターに入力される信号のレベルが高すぎると点灯します。FX MUTE スイッチでエフェクターをミュートした際にも、この LED が点灯します。
31. **FX TO MON-** モニター回線に送るエフェクターの出力レベルを調節します。可変範囲は $-\infty \sim +10$ dB です。



32. **FX TO MAIN-** マスター回線に送るエフェクターの出力レベルを調節します。可変範囲は $-\infty \sim +10\text{dB}$ です。

リア・パネル



33. **ヒューズ・ホルダー付き電源端子**-同梱の電源ケーブルで、RMX1008DFX/RMX1508DFXのこの端子を電源コンセントと接続します。
34. **POWER ON/OFF スイッチ** 電源のオン/オフを切り替えるスイッチです。
35. **SPEAKERS 端子**- スピーカーを接続する端子で、4ウェイ・スピーコン端子と1/4インチ・フォーン端子で構成されています。下記の説明を参考に、AMPLIFIER モード・セレクト・スイッチの設定に応じてスピーカー出力端子を選択してください。

注意:内蔵パワー・アンプの故障を避けるために、接続するスピーカーの許容インピーダンスに注意してください。負荷インピーダンスが低すぎると、アンプが故障する恐れがあります。許容インピーダンスについては、RMX1008DFX/RMX1508DFXそれぞれのプレートを参照してください。

STEREO MODE: 500W @ 4 OHMS
(4 OHM MIN LOAD)
BRIDGE MODE: 1000W @ 8 OHMS
(8 OHM MIN LOAD)

RMX1008DFX

STEREO MODE: 750W @ 4 OHMS
(4 OHM MIN LOAD)
BRIDGE MODE: 1500W @ 8 OHMS
(8 OHM MIN LOAD)

RMX1508DFX

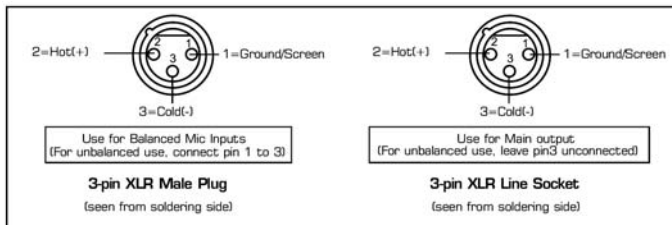
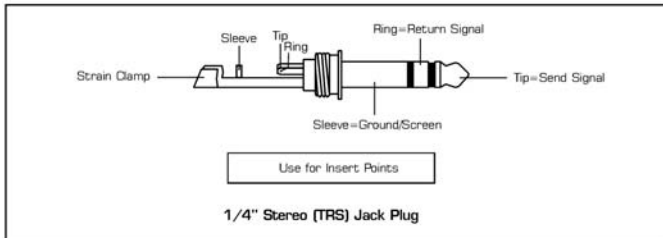
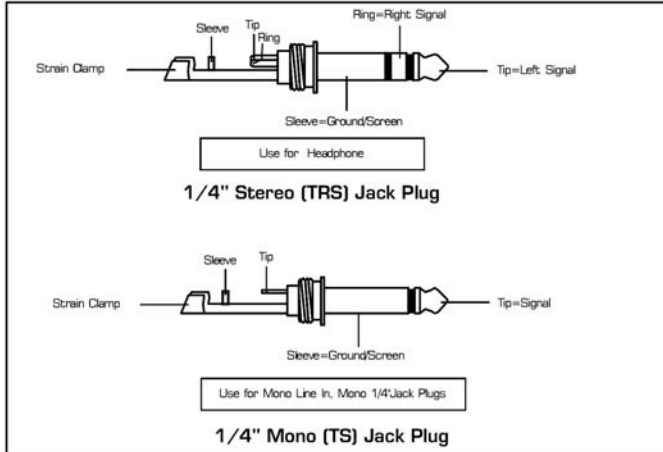
設置および接続について

本書をここまでお読みいただければ、RMX1008DFX/RMX1508DFX を正しく操作することができるはずですが、とはいえ、パワー・ミキサーをより深く理解するために、以下のセクションもよく読んでください。入力の信号レベルや接続回線などに気を遣わなければ、歪みや音質の劣化、あるいは音が出ないといったトラブルを引き起こす恐れがあります。それを防ぐためにも、個々のチャンネルへの接続作業において、以下の事項を守ってください。

1. 全ての入力および出力の LEVEL コントロールを最小にする。
2. ファンタム電源が必要なマイクを RMX2408DFX で使用する際には、マイクを接続した後で+48V のファンタム電源をオンにする。
3. RMX2408DFX および、接続した外部パワー・アンプの出力レベルを、75%以上には上げない。
4. ヘッドフォンやパワー・スタジオ・モニター・スピーカーでミックスをモニターするために、MONITOR レベルを 50%以下の位置に設定する。
5. EQ コントロールを中央の位置に設定しておく。
6. PAN コントロールを中央の位置に設定しておく。
7. 入力のゲイン・コントロールを上げる時には、十分なヘッドルームと理想的なダイナミック・レンジを確保するように注意する。
8. 入力および出力レベルのコントロールは、歪みを生じることなく最大限のゲインを確保するために、使用状況に応じてゆっくりと回して調節する。
9. 全ての入力チャンネルについて、以上の操作を繰り返す。メインの LED メーターが赤い部分まで振れた場合は、マスター・コントロールで全体の音量を調節する。

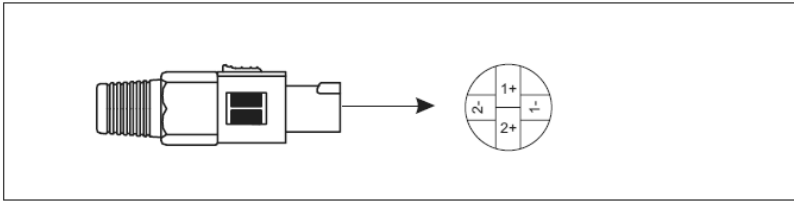
オーディオ用接続プラグ

アンバランス型の機器は、バランス型の機器の入出力にも接続することができます。以下の回路図に従って接続してください。



メイン・スピーカーの接続

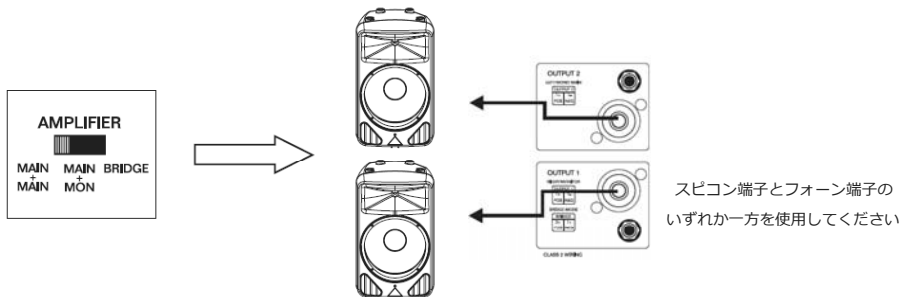
パッシブのスピーカー・キャビネットを他の音響機器と接続する場合は、必ずパワー・アンプ出力用のコネクタを使用してください。スピコン・プラグは通常、1+と1-の端子を使用しますが、ブリッジ・モードでは2+と1+の端子が使用される場合があります。



Speakon connector

アンプ・セレクト・モードについて

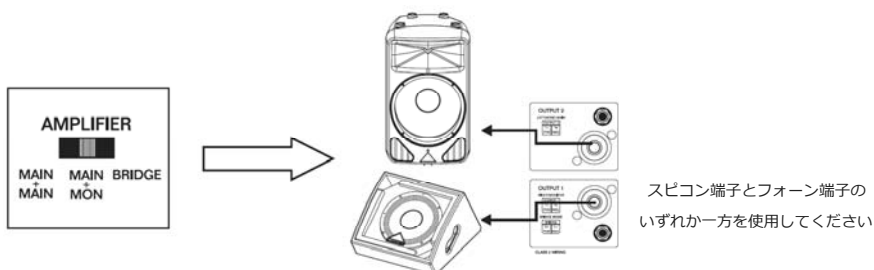
MAIN + MAIN モード



もっとも一般的な使用法で、内蔵のパワー・アンプが左右2台のメイン・スピーカー・キャビネットを鳴らします。AMPLIFIER モードはMAIN + MAIN に設定します。

注意： MAIN + MAIN モードでは、機器の故障を避けるために、SPEAKER 1 および SPEAKER2 の端子に接続するスピーカーのインピーダンスは4Ωを下回らないようにしてください。

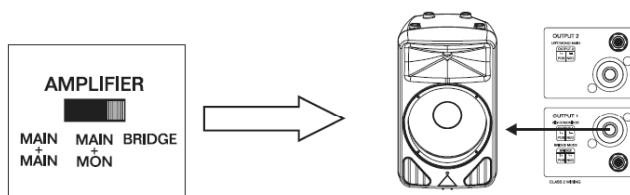
MAIN + MONITOR モード



チャンネル 1 でメイン・スピーカー・キャビネット、チャンネル 2 でステージ・モニターを鳴らす場合は、AMPLIFIER モードを MAIN + MONITOR に設定します。

注意： MAIN + MONITOR モードでは、機器の故障を避けるために、SPEAKER 1 および SPEAKER2 の端子に接続するスピーカーのインピーダンスは 4Ω を下回らないようにしてください。

BRIDGE モード



AMPLIFIER モード・スイッチを BRIDGE に設定すると、2 台の内蔵パワー・アンプがそれぞれの出力を合わせて 1 台のスピーカー・キャビネットを鳴らします。この設定は通常、サブウーファーを鳴らす際に使用します。この場合、中高音域は MAIN OUT の出力で鳴らしたワード・スピーカーが受け持ちます。

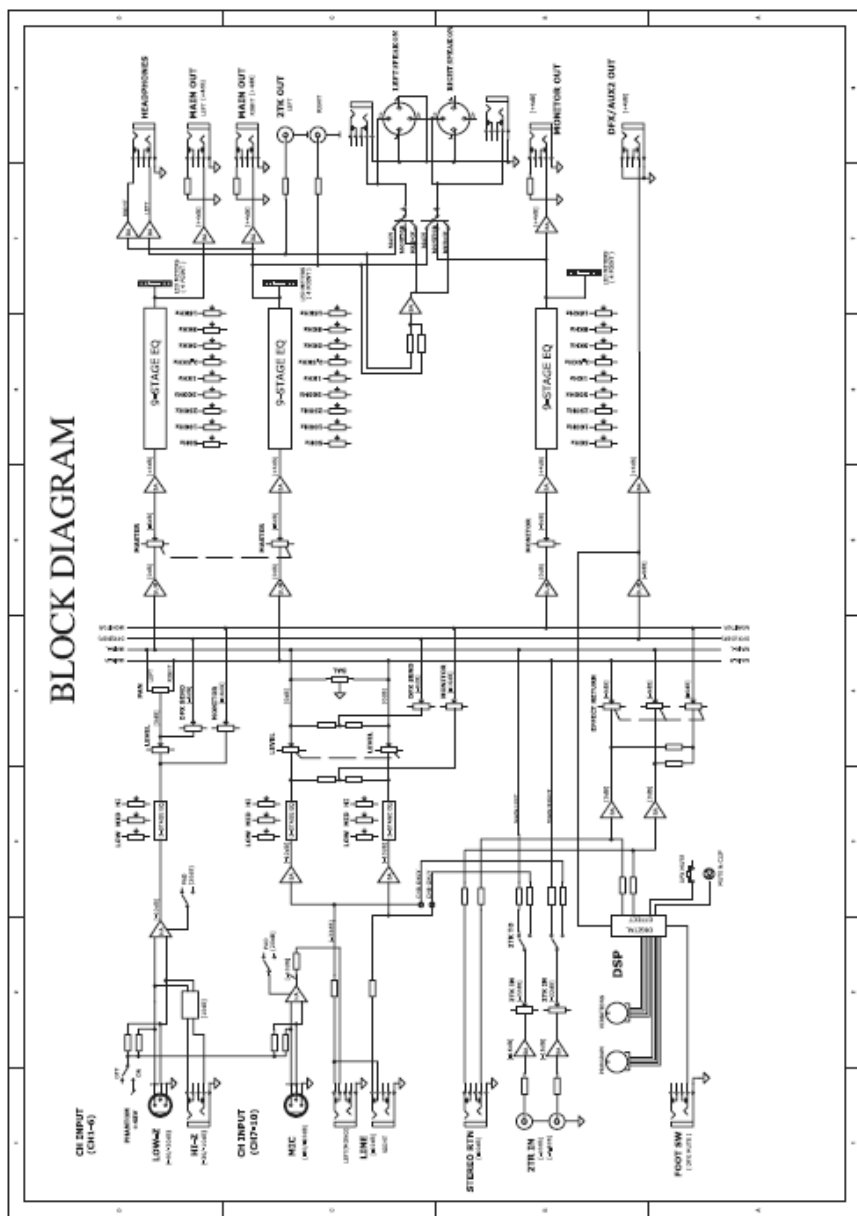
注意：ブリッジ・モードでは、OUTPUT2 のスピーコン端子の 2+ および 1+ 端子に接続したインピーダンス 8Ω のスピーカーしか使用できません。これ以外の端子にスピーカー負荷をかけると、アンプが故障する恐れがあります。

エフェクト

チャンネルにエフェクトをかける方法: PRESETS セレクターで以下の中からエフェクトを選び、VARIATIONS セレクターで深さを調節します。チャンネルの AUX 2/FX POST ノブを上げると、選択したエフェクトがかかります。

#	プリセット	説明	パラメーター	可変範囲
1	ボーカー1	響きの少ない部屋をシミュレートしたリバーブ	ディケイ・タイム プリ・ディレイ	0.8~1.1s 0~79ms
2	ボーカー2	やや響きの多い部屋をシミュレートしたリバーブ	ディケイ・タイム プリ・ディレイ	0.8~2.5s 0~79ms
3	ラージ・ホール	大ホールをシミュレートしたリバーブ	ディケイ・タイム プリ・ディレイ	3.6~5.4s 23~55ms
4	スモール・ホール	ステージ上をシミュレートしたリバーブ	ディケイ・タイム プリ・ディレイ	1.0~2.9s 20~45ms
5	ラージ・ルーム	初期反射の多いスタジオをシミュレートしたリバーブ	ディケイ・タイム プリ・ディレイ	2.9~4.5s 23~55ms
6	スモール・ルーム	明るい響きのスタジオをシミュレートしたリバーブ	ディケイ・タイム プリ・ディレイ	0.7~2.1s 20~45ms
7	プレート	明るい響きのプレート・リバーブのシミュレーション	ディケイ・タイム プリ・ディレイ	0.6~6.1s 10ms
8	テープ・リバーブ	複数の再生ヘッドを持つ、古いテープ・ディレイのシミュレーション	ディケイ・タイム プリ・ディレイ	1.3~5.4 0~84ms
9	スプリング・リバーブ	スプリング・リバーブのシミュレーション	ディケイ・タイム プリ・ディレイ	1.3~5.4s 0~84ms
10	モノ・ディレイ	短い時間を置いて同じ音を繰り返すエフェクト	ディレイ・タイム	60~650ms
11	ステレオ・ディレイ	左右のチャンネルでディレイ・タイムがわずかに異なるエフェクト	ディレイ・タイム フィードバック	210~400ms 37~73%
12	フランジャー	ジェット機が離陸する時のような効果を生み出す、ステレオ・フランジング・エフェクト	レート	0.16~2.79Hz
13	コーラス	複数の楽器が同じ演奏をした時のような、音のにじんだような豊かな効果を生み出すエフェクト	レート	0.5~5Hz
14	リバーブ+ディレイ	ディレイとルーム・リバーブのミックス	ディレイ・タイム リバーブ・ディケイ	211~375ms 1.0~2.9s
15	リバーブ+フランジャー	ステレオ・フランジャーとリバーブのミックス	フランジャー・レート リバーブ・ディケイ	0.16~2.52Hz
16	リバーブ+コーラス	ステレオ・コーラスとリバーブのミックス	コーラス・レート リバーブ・ディケイ	0.5~4.74Hz 1.5~2.9s

ブロック・ダイアグラム



仕様

モノラル入力チャンネル

- **MIC 入力:** 電子バランス型、ディスクリート回路
- **周波数特性:** 10Hz~55kHz、+/-3dB
- **歪み率:** (THD & N) 0.006%、+4dBu、1kHz
- **ゲイン:** 50dB (MIC)
- **SN 比:** 90dB 以上
- **LINE 入力:** 電子バランス型
- **周波数特性:** 10Hz~55kHz、+/-3dB
- **歪率:** (THD & N) 0.04% at +4dBu, 1kHz
- **ゲイン:** 30dB

ステレオ入力チャンネル

- **LINE 入力:** アンバランス型
- **周波数特性:** 10Hz~55kHz、+/-3dB
- **歪率:** (THD & N) 0.006%、+4dBu、1kHz

インピーダンス

- **MIC 入力:** 1.4k Ω
- **その他の入力:** 10k Ω 以上
- **2TK OUT:** 1k Ω
- **その他の出力:** 120 Ω

イコライザー

- **HI (シェルビング) :** +/-15dB @12kHz
- **MID (ベル) :** +/-15dB @2.5kHz
- **LOW (シェルビング) :** +/-15dB @ 80Hz

DSP セクション

- **A/D および D/A コンバーター :** 24-bit
- **DSP 分解能:** 24-bit

エフェクト

- ホール、ルーム、ボーカルおよびプレート・リバーブ、モノおよびステレオ・ディレイ（最大ディレイ・タイム 650ms）、コーラス、フランジャー、リバーブ、リバーブ+ディレイ、リバーブ+コーラス、リバーブ+フランジャー
- **プリセット数:** 256
- **コントロール:** 16 ポジション PRESET セレクターおよび 16 ポジション VARIATION セレクター
CLIP LED、LED インジケーター付き MUTE スイッチ

メイン・ミックス・セクション

- ノイズ（バス・ノイズ）：フェーダー0dB、チャンネル・ミュート時：-85dBr (+4 dBu 基準)
フェーダー0 dB、全入力チャンネル・アサイン、ユニティ・ゲイン時：-71dBr (+4 dBu 基準)
- 最大出力レベル：+27dBu バランス、+22dBu アンバランス、1/4 インチ端子
- AUX センド最大出力レベル：+22dBu

パワー・アンプ・セクション

- **RMX1008DFX**
ステレオ・モード時：400W (RMS) @4 Ω , 480W (EIAJ) @4 Ω
254W (RMS) @8 Ω , 263W (EIAJ) @8 Ω
ブリッジ・モード時：945W@8 Ω
- **RMX1508DFX**
ステレオ・モード時：680W (RMS) @4 Ω , 770W (EIAJ) @4 Ω
429W (RMS) @8 Ω , 399W (EIAJ) @8 Ω
ブリッジ・モード時：1553W@8 Ω

電源

- 100V,50/60Hz
- ヒューズ 100～120V : T8A (RMX1008DFX) 、 T10A (RMX1508DFX)

寸法 (幅×奥行き×高さ)

- 550mm×220mm×310mm

重量

- (本体) 8.0kg (梱包時) 10.8kg